

各材質の特徴

■ ノリタケチャイナ

明治37年[1904]～

日本で初めて白色硬質磁器のディナーセットを完成させたノリタケを代表する材質。明治29年に白色磁器による洋食器製造の研究を開始し、それまでの灰色磁器から白色磁器への改良に取り組んだ。苦難の末に完成をみた森村組は明治37年に日本陶器合名会社を設立するが、洋食器セットに必要なディナー皿の製造は更に困難を極めた。洋食器としてのディナー皿完成はその後10年を要し、大正3年[1914]に完成する。還元炎で焼成する。

■ ボーンチャイナ

昭和7年[1932]～

18世紀末にイギリスで開発され、日本ではノリタケが初めて完成させた。原料の中に牛の骨灰を配合し、磁器としては低火度の酸化炎で焼成する軟軸磁器である。国内では1980年代初めに生活様式の高級化に伴い、一般家庭用食器もボーンチャイナの需要が増加し、更にはホテル・レストランの業務用食器までボーンチャイナ素材の要望がでてきた。現在では白色硬質磁器とともにノリタケの主力製品となっている。

■ ファインチャイナ

昭和28年[1953]～39年[1964]

ボーンチャイナの製法を通常の磁器に応用し、還元炎で焼き締めをして、1,100℃程の低火度で釉を掛け焼成した軟軸磁器である。通常の磁器は焼成時に変形が生ずるが、この製法では変形も少なく釉薬の光沢も良い。絵具の発色と繊細な仕上がりの形状を特徴とする。

■ アイボリーチャイナ

昭和36年[1956]～

白色硬質磁器ノリタケチャイナと同じ素材で、焼成を酸化炎にすることで象牙色の光沢のある生地を創出。温かな印象を与える硬質磁器である。市場の強い要望と新素材の研究の結果、酸化炎で平滑な釉面となる磁器釉薬調合に成功し製造を開始した。

■ プログレッションチャイナ

耐熱強化磁器 昭和40年[1965]～58年[1983]

耐熱、急冷、衝撃にも耐えオープンや直火も可能で、そのまま食卓で使用できる特殊低膨張耐熱強化磁器である。北米市場では購入後2年以内の家庭で通常使用での破損に対し、無償補充も実施した。国内では一般家庭のほかホテル・レストランの業務用食器として好評を得た。

■ カラーボディー

昭和45年[1970]～47年[1972]

アイボリーチャイナの製法を応用し生地原料に色粉を添加混入し、グリーン、ブルー、ピンク、イエローの色生地磁器を開発し製品化した。主に北米市場を中心に販売し、ブルー、グリーンは国内市場にも展開された。この技術は第二次大戦前から保有していたが、色の揃いに安定感を得るまで商品化は見送られていた。

■ フォークストーン

昭和45年[1970]～

手作り、素焼きを施した焼物の味わいを求める市場の要望に応じて製造に参入した。炆器と呼ばれる焼物で、少し肉厚で、硬く焼き締めたマット調の肌合いが特徴である。北米市場のみならず全世界に拡販し、現在はノリタケストーンウェアと名称を変えている。

■ プリマストーン

昭和47年[1972]～61年[1986]

フォークストーンがクラフト感覚の食器であるのに対し、同じ素材でフォーマルなディナーウェア感覚を取り入れたストーンウェアで、酸化炎焼成と還元炎焼成の2種類を製造し、多彩なカラーバリエーションを展開した。

■ クラフトーン

昭和47年[1972]～

ボーンチャイナと同じ方式で焼き上げた製品で下画付けを特徴としている。冷熱強度にも優れている為、電子レンジ・オープン、食器洗浄器に対応できる。カジュアル食器として多くのヒット商品がある。

■ プリマデュラ

昭和48年[1973]～

外食産業の発達により、業務用食器の需要が増大し、さらに強度の高い素材と、より純白な製品の要望がでてきた。市場の要望に応え生地にアルミナを加えより強度の高い結晶を生成する強化磁器を開発し、業務用食器として幅広く使用された。

■ パーサトーン

昭和51年[1976]～平成元年[1989]

生地の原料にアルミナを加えることで耐熱、耐衝撃などの物性に優れ、オープン、電子レンジ、食器洗浄器にも使用し得る抜群の製品で、すべてに優れたという事からトリプルA(AAA)とも言われた。第一弾は北米市場の一般家庭用として発売され、その後、日本市場の家庭用日常食器から、ホテル・レストランなどの業務用としても展開された。

■ イエローボーンチャイナ

昭和54年[1979]～

北米市場の高級ディナーウェアとして、アメリカ人の好む色調を得るために、従来のボーンチャイナに対して新たに象牙色で温かみのある色調のボーンチャイナを開発した。このボーンチャイナは発売と同時に全米で高い評価を得た。

■ ダイヤモンドコレクション

昭和54年[1979]～平成13年[2001]

ノリタケ創立75周年(ダイヤモンドアニバーサリー)を記念して世界最高峰と自負する高火度白色硬質磁器を完成させた。純白度、光沢、透光度に優れている。

■ ニューディケイド・プリマチャイナ

昭和59年[1984]～

クラフトーンを改良し、柔かで白い肌合いをもった硬質陶器である。電子レンジやオープン、食器洗浄器にも使用でき、機能美あふれた素材である。カジュアルディナーウェアとしてヒット商品を産み出し、国内外で高い評価を得ている。

■ ファインチャイナ

昭和59年[1984]～平成11年[1999]

昭和28年に作られたファインチャイナに類似しているが、時代の好みに合わせ生地の色調を象牙色とし、光沢、透光性、絵具の浸透性も優れ、温かみを感じさせる磁器である。主に北米市場向けに製造、輸出された。

■ エステートポーセレン

平成2年[1990]～13年[2001]

ボーンチャイナと白色磁器のそれぞれの長所と特徴を取り入れ開発した高級軟軸磁器。硬質磁器素材を高温の還元炎で焼き締めた後に施釉し本焼成する。生地は薄手で軽く、柔らかな光沢をもち透光度も高い。画付効果も優れた高品位な白色磁器である。

■ ニューファインカジュアルチャイナ

平成6年[1994]～

1989年に北米でガラクジンの商標で発売した軟軸磁器ファインカジュアルチャイナをベースとして、原料に含まれるアルミナを増やすなどの改良を加え、耐熱衝撃性も高い新しい生地を開発した。北米市場で発売後、日本国内市場で一般用としても販売され新FCCと呼ばれている。



ノリタケの森クラフトセンター内 ノリタケミュージアム
〒451-8501 名古屋市西区則武新町三丁目1番36号
TEL052-561-7114 [代] FAX052-561-7276

- 交通 ■ 地下鉄東山線「亀島」駅下車徒歩5分
JR名古屋駅～徒歩15分、名鉄栄生駅～徒歩15分
- 駐車場 ■ 有り

